No.31　2022年6月
NEWS Letter
The Japan Esophageal Society
JES 日本食道学会

第76回日本食道学会学術集会開催について

第 76 回日本食道学会学術集会　会長
島田　英昭
（東邦大学大学院
消化器外科学講座・臨床腫瘍学講座）

いよいよ 9 月 24 日（土）から第 76 回学術集会の幕開けです。まだまだコロナ感染の影響はありますが、感染制御のノウハウも蓄積され、多くの学術集会がポストコロナ体制として正常化に向かっているタイミングとなるものと思います。国際食道疾患会議（ISDE）との合同開催ということで、変則的に 9 月開催となりました。いろいろなご予定を調整していただきまして会員の皆様に深く感謝申し上げます。今回の学術集会は、2021 年に胃癌治療ガイドラインが発刊され、2022 年には、食道癌診療ガイドラインが発刊された後に開催される初めての学術集会となります。5 月 16 日に理事会にてご承認いただきました開催概要をご紹介させていただきます。

第 1 日目の 9 月 24 日（土）午後は、理事長講演、会長講演に引き続いてガイドライン特集セッションを企画いたしました。同時に食道癌取り扱い規約の改訂内容についても、ご講演頂く予定です。毎年恒例の教育セミナーはオンラインでの別途企画となりますので、是非、このガイドラインセッションにご参加ください。最新ガイドラインのエッセンスが初めて公開される貴重なセッションとなる予定です。

第 2 日目は 9 月 25 日（日）となります。90 分枠の上級セッションを 16 企画 4 会場で開催いたします。ランチョンセミナーも含めて、参加するだけで、お得な情報をインプットできると思います。そろそろオンラインの学術集会にも飽きてきたなあ、と感じていらっしゃる会員の皆様には、是非とも会場までお越しいただければ、と思います。

第 3 日目は 9 月 26 日（月）です。朝から 14 時まで、上級セッション 12 企画を同じく 4 会場で開催いたします。月曜日は大切な診療日であることは承知しておりますが、是非ともオンサイトでの生番組をお楽しみください。

…とはいっても「病院のルールで現地参加は難しい」という皆様は、ハイブリッドでオンラインでも講演・ディスカッションを楽しめるようにいたします。一般演題・ポスターについては、オンデマンドのご講演とさせていただきます。一部の演題については、「第 5 会場」でのオンサイトのご講演を予定しております。ご講演の先生方、ご司会の先生方には、種々お手数おかけいたしますが、何卒ご支援よろしくお願い申し上げます。

評議員会・総会の開催について

令和 4 年（2022）年度日本食道学会評議員会ならびに社員総会を下記の要領で開催いたしますので、是非ご出席くださいますようお願い申し上げます。なお、招集通知、委任状（ハガキ）は 8 月下旬に郵送させていただきます。お手元に届きましたら必ずご確認ください。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

評 議 員 会

【日 時】令和 4 年 9 月 24 日（土）
10：30 ～ 11：45

総　　会

【日 時】令和 4 年 9 月 24 日（土）
13：15 ～ 13：45

【場 所】京王プラザホテル 4 階
「錦」（第 1 会場）
東京都新宿区西新宿 2−2−1

2022年度教育セミナーについて

教育委員会委員長　亀井　尚
（東北大学大学院医学系研究科　消化器外科学分野）

2022 年度の教育セミナーは昨年に引き続きオンデマンド配信形式の WEB 開催とすることになりました。会員マイページから事前に申し込みをいただきましたが、テキストは 6 月下旬より随時発送いたします。配信期間は 2022 年 7 月 1 日（金）から 9 月 30 日（金）（予定）となっております。今回の講師・講義テーマは以下のように企画いたしました。

講 師 ・ 講 義 テ ー マ

1	**食道癌手術におけるトラブルシューティング** （関西医科大学外科学講座・山﨑誠先生）
2	**縦隔鏡手術の導入と実際** （京都府立医科大学消化器外科・藤原斉先生）
3	**食道癌に対する光線力学療法** （国立がん研究センター東病院 消化管内視鏡科・矢野友規先生）
4	**食道がん** **～JCOG1109 の結果および ICI を含む集学的治療** （国立がん研究センター中央病院 頭頸部・食道内科・加藤健先生）
5	**食道破裂の現状と治療戦略** （群馬大学大学院総合外科学講座消化管外科・ 宗田真先生）
6	**HRM とシカゴ分類 v4.0** （群馬大学医学部附属病院消化器・肝臓内科・ 栗林志行先生）

いずれも最新の知識を得られる充実したものとなっております。教育セミナーの WEB システムでは、全講義動画を 100％視聴されたことが確認されますと受講証のダウンロード可能になります。詳しくは学会ホームページをご覧ください。また今後の教育セミナーも集合型ではなく WEB 配信とする方針が決定しておりますので、併せてお知らせいたします。

各種委員会・部会報告

〔選挙管理委員会〕

2022年度役員選挙、2023年度評議員選挙について

委員長　石原　立（大阪国際がんセンター　消化管内科）

1. 2022 年の日本食道学会役員改選につきましてご連絡します。選挙は 2022 年 9 月の学術集会開催時に行う予定です。次期副会長、理事、監事が選定されます。次期副会長（第 79 回会長）は非外科となります（役員・評議員選任規定第 7 条ー2）。理事は、評議員であり、最近 2 年以内に最低 1 編以上の論文を Esophagus に投稿していることを要します。
選挙日程および改選数は以下の通りです。

【役員選挙日程】
告 示 日　　：2022年 8 月 1 日㈪
立候補受付期間：2022年 8 月 8 日㈪から 8 月31日㈬
　　午後5時必着
公 示 日　　：2022年 9 月 9 日㈮
選　　挙　　：2022年 9 月24日㈯　評議員会

【次期副会長選挙】
非外科

【理事選挙】
2022 年度改選理事
外科 6 名、内科 2 名、放射線科 1 名、基礎系 1 名

【監事選挙】
2022 年度改選監事は該当者なし。
定款施行細則第 3 号　第 13 条ー2
（選挙によって選任する監事の数は任期を残す監事数を 4 名から減じた数とする。）により、 1 名選任することができる。

2. 定款・施行細則に基づき、来年に評議員選挙を実施いたします。詳細は 2022 年 9 月上旬にホームページ等でお知らせいたしますので、ご確認お願いいたします。

〔会則委員会〕

定款変更認証について

委員長　神宮　啓一
（東北大学大学院医学系研究科　放射線腫瘍学）

2021 年 7 月 13 日開催の当学会評議員会および社員総会において承認された定款変更につきまして、2022 年 3 月 7 日付で東京都の認証を受けましたので、お知らせいたします。

変更の内容は以下のとおりです。

(1) 事業年度について
(2) 事業報告、事業計画、決算、予算の議決について
(3) 学術集会と社員総会の開催について
(4) 書面表決について
(5) 文言の統一について

詳細は会員マイページに「会員向けお知らせ」として掲載しておりますのでご確認ください。

変更後の定款および定款施行細則はこちらをご確認ください。

URL：
https://www.esophagus.jp/private/about/rules.html

〔会誌編集委員会〕

Esophagusへの投稿を！

委員長　松原　久裕
（千葉大学大学院医学研究院　先端応用外科学）

昨年ご報告したように英文機関誌 Esophagus 誌の 2020 年の Impact Factor は 4.230 となり、2019 年に引き続き食道分野での top journal の座を維持することができました。皆様のご支援に感謝申し上げます。2022 年の投稿状況はコロナが未だ収束しない状況でありますが、順調に進んでおり 1 年の 3 分の 1 が終了した 4 月末の段階で原著論文が 107 報と、単純計算すると 3 倍で年間数となりますが、昨年の 283 報を超える投稿がされております。ただ、日本からの投稿数は増加しておらず、実際 2021 年は 137 報と投稿数は地

域別でトップでしたが、2020 年の 142 報より減少しております。今年はこれまで続けてきた投稿数トップの座を初めて中国に奪われそうな状況です。是非とも、本学会の機関誌である本誌への投稿数トップを維持できるよう、皆様の投稿をお待ちしております。

今年も例年通り最優秀論文賞の選奨を進めております。2021 年に出版され日本食道学会会員が執筆した原著論文につきまして、編集委員の選考が開始されました。現在の選考は2021年に出版された論文ですが、来年の受賞を目指し、皆様からの素晴らしい原著論文の投稿をお待ちしております。また、多くの論文を査読して頂いた Reviewer 功労賞の選定も進んでおります。ご尽力頂いた先生方の労力に少しでも報いることができればと考えております。本年は食道学会が ISDE との関係で通常の 6 月前後の開催でなく、9 月に開催されますので、総会時ではなくその前に発表になると思います。賞に洩れた先生を含め多くの時間を割いて頂いた Reviewer の皆様に心より御礼申し上げます。

今後も、食道分野のみならず消化器分野におけるトップランクの雑誌を目指していきたいと思います。そのためには皆様からの素晴らしい論文の投稿が不可欠です。編集陣も頑張って参りますので、皆様のご支援、御協力を切に御願い申し上げます。

〔広報委員会〕

市民公開講座報告、食道学会YouTube開設

委員長　加藤　健
（国立がん研究センター中央病院　頭頸部・食道内科）

広報員会では、2022 年 4 月 9 日に、第一回市民公開講座を開催したことを第一に報告したい。日本医学会の下部組織として承認されるためには、市民公開講座の実施が必須ということで、理事長の肝いりのイベントとして企画された。実行委員長は、慶應義塾大学の浜本康夫先生にお願いし、患者会食がんリングスの高木さんにも企画段階から入っていただき検討が行われた。4 月は食道がん啓発月間ということもあり、第一部は学会主導の市民公開講座、第二部は患者会主催の会を、YouTube でライブ配信という形となったが、それぞれの視点からの多様な内容になったと思う。標準的な治療を正しく伝える部分と、実際の患者が困っていることを、食道がん患者の経験を共有したり、医師が答えたりする部分の両方があり、個人的に良かったと思う。毎月患者会を ZOOM で行っている高木さんと、そういった活動に日頃から医師として参加している浜本先生や、川田先生の経験が生きた結果と思われる。現在これらのコンテンツを、1 日のイベントで終わらせるのではなく、短い動画にして“日本食道学会 YouTube チャンネル（仮）”にアーカイブとして残し、当日見れなかった患者さんにも届くよう、準備を進めている。このチャンネルを利用し、各種情報発信を行うことも企画しており、今の時代に即した情報発信のプラットフォームが出来上がりつつある。

今後は第 2 回市民公開講座を今度は食道良性疾患をテーマに企画を進めており、より広い層に情報発信する予定である。ちなみに今回の市民公開講座は ZOOM から YouTube ライブストリーミングで行っており、会場などを抑えずに済んだため、非常に低コストで行われたことも付け加えさせていただく。

〔保険診療検討委員会〕

令和４年度診療報酬改定について

委員長　渡邊　雅之（がん研究会有明病院　消化器外科）

令和 4 年度の診療報酬改定の結果が判明いたしました。

【技術・新設】

再建胃管悪性腫瘍手術は新設が認められました。

K529-4 1 再建胃管悪性腫瘍手術・全摘
（消化管再建を伴う）（頸部・胸部・腹部の操作）
112,190 点

K529-4 2 再建胃管悪性腫瘍手術・全摘
（消化管再建を伴う）（頸部・腹部の操作）
101,670 点

【技術・改正】

1）食道大動脈瘻手術（大動脈瘤切除術と食道切除術の同時算定）が認められました。
K527-2 食道切除術（単に切除のみのもの）と K-560 大動脈瘤切除術（吻合または移植を含む）主たる手術の所定点数に従たる手術の所定点数の 100 分の 50 に相当する点数を請求できることとなりました。

2）自動縫合器使用個数の増加（6 個→ 8 個）が認められました。アンケート調査へのご協力、誠に有難うございました。

一方、縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術の増点、ロボット支援下食道悪性腫瘍手術の増点は認められませんでした。

令和 6 年度診療報酬改定に向けた作業が既に始まっています。会員の皆様には、近日中に新設・改正項目のアンケート調査をお送りいたしますので、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

〔全国登録委員会〕

食道癌全国登録と消化器外科領域新規研究課題について

委員長　渡邊　雅之（がん研究会有明病院　消化器外科）

食道癌全国登録は NCD 移行後 3 年目となる 2015 年症例の後ろ向き登録が終了し、解析結果が揃いました。結果は Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2015 として近々、登録参加施設の皆様にお届けできる見通しです。一方、2016 年症例の後ろ向き登録は 3 月 10 日から登録開始となりました。現在のところ、6 月 30 日締め切り予定で登録が進められております。引き続き、食道癌全国登録へのご参加をよろしくお願い申し上げます。

また、2022 年度 NCD を利用した消化器外科領域新規研究課題が 1 月末締め切りで公募されました。本年度は 5 課題の申請があり、理事会での審査の結果、下記の 2 課題が採択となりました。来年度も同様のスケジュールで研究課題を募集する予定です。

術前腎機能が食道切除術後短期成績に与える影響についての検討

（群馬大学大学院　総合外科学講座消化管外科学
佐伯　浩司　先生）

胸腔鏡下食道切除術の腹部アプローチ法による短期成績の比較検討

（慶應義塾大学医学部　外科学（一般・消化器）
北川　雄光　先生）

〔食道科認定医認定部会〕

食道科認定医認定部会より

部会長　佐伯　浩司
（群馬大学大学院　総合外科学講座消化管外科学分野）

日本食道学会では、食道科認定医を「食道の解剖生理の研究ならびに食道疾患の診療に必要な知識を備え、その研究および診療を担当する能力を有する医師であることを本学会が公認するもの」と定めています。食道外科専門医とは違い、外科以外の診療科や基礎の先生方もその資格を有することができます。

食道科認定医の新規認定申請、更新認定申請には、定められた研究業績（論文、学会発表）と研修実績（学会出席、セミナー受講）による書類審査が必要となります。令和 3 年度は 76 名の新規申請があり、うち 76 名が食道科認定医として認定されました。また 89 名が食道科認定医の更新申請をされ、89 名更新が認められています。この結果、食道科認定医は令和 4 年 1 月現在 1,061 名（終身食道科認定医 38 名、外科系 917 名、内科系 86 名、放射線科およびその他の臨床科 19 名、病理および基礎系 1 名）となりました。

専門的な知識を必要とする食道疾患の診療や研究を行うにあたり、ぜひ食道科認定医を取得していただき、

国民の健康と福祉、そして日本食道学会の発展に貢献していただければありがたく存じます。令和 4 年度の申請につきましては学会ホームページをご参照ください。また、部会にて申請時の FAQ を作成し申請案内ページに掲載いたしましたので、ご活用ください。

〔食道外科専門医認定部会〕

2022年度食道外科専門医申請

部会長　安田　卓司
（近畿大学医学部　外科学教室上部消化管部門）

漸く世の中は少しずつコロナ以前の状況に戻りつつある状況になりました。このままであれば、今年も食道外科専門医認定試験は実施できると思いますので、多くの先生の申請をお待ちしています。それでは、食道外科専門医の各種申請について注意点を説明します。

【食道外科専門医新規申請】

6 月 1 日から 8 月 1 日までの期間で現在申請受付中です。申請の簡略化を少しでも図るために申請書類を修正しました。必ず最新版を使用して申請して下さい。それと手術記録は、領域別の術者・指導医の記載（記載不十分の時は術者一覧表の添付が必須）、手術イラストの記載、郭清 LN No. の正確な記載がされているか確認した上で全頁を提出してください。また、今年度から内視鏡外科技術認定（消化器・一般外科）を審査対象：食道癌手術で取得された先生はビデオ審査免除となりますので（確認の意味で手術ビデオの提出は必要）、認定証のコピーを提出するようにして下さい。なお、申請に関する問い合わせについては「よくある質問（FAQ）」にまとめましたのでご参照下さい。

一次審査（書類審査・手術ビデオ審査）の結果は 10 月末から 11 月初めに郵送予定です。合格の先生には受験票をお送りしますので大切に保管しておいてください。

【食道外科専門医認定試験】

二次審査は、11 月 19 日（土）に例年同様に国立がん研究センター中央病院で実施する予定です。筆記試験と口頭試問の総合点で判定されます。今年は取扱い規約やガイドラインが改訂されますが、筆記試験は現在の版（規約は第 11 版、ガイドラインは 2017 年版）を基に出題します。ただし、H.P. を通じてガイドライン委員会から公開された速報コメントについては出題の範囲に含めますのでご留意下さい。

【食道外科専門医更新申請】

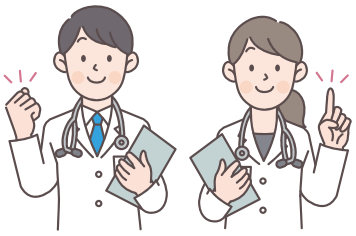
受付期間は 8 月 1 日から 8 月 31 日までです。今年が認定の最終年の先生または復活申請をされる先生は申請をお願いします。更新申請の書類も修正しましたので、必ず最新版を使用して申請して下さい。なお、更新についても「よくある質問（FAQ）」をまとめましたのでご参照下さい。

【食道外科名誉指導医】

受付期間は更新申請と同じ 8 月 1 日から 8 月 31 日までです。食道外科専門医の更新ではなく、食道外科名著指導医への移行を希望される先生は、資格内容をご確認の上、所定の様式で申請をお願いします。

【今後】

新規ならびに更新における申請資格条件は、理事会を中心に今後見直しを図る方向で検討予定です。学会 H.P または事務局からのメールを十分ご確認頂くようお願いします。それでは、今年はいつも以上に多くの先生が新規専門医を取得され、かつ専門医を更新して頂けることを期待しています。



〔食道外科専門医認定施設認定部会〕

施設認定制度の先にあるもの

部会長　本山　悟（秋田赤十字病院　消化器外科）

食道外科専門医認定施設認定部会部会長の大任を、矢野雅彦先生から引き継ぎ、6 年間を務めさせて頂きました。なによりお世話になった会員の皆様に、そして高所からご指導下さいました多くの先生方に心から感謝申し上げます。今年も例年と同様に、規則に基づき、ほぼ機械的に施設認定審査を行っていますが、時に業務を止め、感慨に浸る瞬間があります。多くの施設が施設認定を一貫して維持している中、名門の、平成の食道外科を牽引してきた施設が様々な事情で認定施設から外れることが判ったときです。“Old soldiers never die, they just fade away.”、この言葉は、ご存じのとおりダグラス・マッカーサーが 1951 年の退任演説で発した言葉です。いろんな解釈があるかと思いますが、私は、「役割を全うし表舞台からは去るものの、まだまだやることがある、決して終わりはない。」と解釈しています。去りゆく名門施設を思い、この言葉が浮かんできました。食道癌手術では、その手術侵襲の大きさ、必ずと言ってよいほど伴う術後の QOL 低下、そして癌再発リスクの高さなどから、極めて専門性の高い、かつきめ細かな治療が要求されます。また、術後長期間の患者に寄り添ったケアも必要です。それゆえ、高いレベルの手術治療を確実に実施できる食道外科専門医認定施設が少なくとも各都道府県に 1 施設は存在する必要があると、任期中一貫して訴えてきました。まもなく任期を終えるにあたって、今はもう少し俯瞰的に考えています。この食道外科専門医認定施設認定を長期間維持することで、その施設の歴史が刻まれ外科治療レベルが高く維持される。これに伴いその施設に命を預ける患者さんおよび家族に信頼と安心を与える。この循環の中で、専門医認定施設認定制度が続くことが、我々の目指す社会福祉、医療提供体制整備の一翼を担うと思っています。

〔研究推進委員会〕

2022年度日本食道学会研究課題について

委員長　掛地　吉弘（神戸大学　食道胃腸外科）

研究推進委員会は 2015 年度に新設され、2022 年度までの 8 年間に 17 課題が食道学会において承認されて全国規模の研究が行われています（食道学会ホームページの研究活動をご参照ください）。多くの成果が学会発表や論文として発信されています。

本年度も＜2022 年度の研究課題の公募＞を行いました。本年は 7 課題の応募がありました。計画の科学性、実現可能性、学会主導として行う妥当性などを研究推進委員会で審査をした結果、下記の 2 課題を選出し理事会でも承認されました。応募課題は全て優れたものでしたが、調査に協力して頂く施設の負担を考えて採用は 2 課題としました。

1. 食道癌における機械学習を用いた画像認識による術前化学療法および化学放射線療法の効果判定手法確立を目指した多施設共同後ろ向き観察研究
北川　雄光　先生
（慶應義塾大学医学部　外科学（一般・消化器））

2. 後期高齢者のリンパ節郭情範囲についての現況調査と周術期リスクや予後との関連性の検討
亀井　尚　先生
（東北大学大学院　消化器外科学分野）

本活動は 8 年目に入り、更なる研究活動の向上と充実が求められます。「食道学会が主導して世界に情報を発信する」という目標の下に学会と会員が協力してより良い研究が成されるように、委員会も全力を尽くします。会員の皆様からの多くのご提案、ご意見を頂戴しながら進めて参ります。ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

会告：第 78 回日本食道学会学術集会

公益財団法人がん研究会有明病院
消化器外科

会長　渡邊　雅之

第 78 回日本食道学会学術集会を令和 6（2024）年 7 月 4 日（木）、5 日（金）の両日、東京駅直結のステーションコンファレンス東京で開催させていただくこととなりました。歴史と伝統ある本学会学術集会の会長を務めさせていただくことを大変光栄に存じますとともに、土岐祐一郎理事長をはじめ、日本食道学会会員の皆様に心より感謝申し上げます。

がん研としては、昭和 44 年に梶谷環先生が第 6 回日本食道疾患研究会を当番世話人として開催されて以来、55 年ぶりに本学術集会をお世話させていただくこととなります。テーマおよび企画につきましては第 76 回の島田英昭先生、第 77 回の安田卓司先生の学術集会も参考にさせていただき、実りある会となりますように準備を進めて参りたいと存じます。コロナ禍から脱却し、皆様方と東京でお会いできるのを楽しみにしております。何卒、よろしくお願い申し上げます。

2022 年以降の学術集会のご案内

◆ 第76回日本食道学会学術集会

会長：島田　英昭（東邦大学大学院
消化器外科学講座・臨床腫瘍学講座）
会期：2022年9月24日（土）～ 26日（月）
会場：京王プラザホテル

◆ 第77回日本食道学会学術集会

会長：安田　卓司（近畿大学医学部
外科学教室上部消化管部門）
会期：2023年6月29日（木）～ 30日（金）
会場：大阪国際会議場

◆ 第78回日本食道学会学術集会

会長：渡邊　雅之（がん研究会有明病院　消化器外科）
会期：2024年7月4日（木）～ 5日（金）
会場：ステーションコンファレンス東京

＊編集後記

編集後記を記載する時には、その時のトピックを盛り込むようにしているが、今まではコロナ禍の話題を取り上げてきた。ところがこの記事を執筆している 2022 年 4 月現在、ウクライナ戦争のことを取り上げざるを得ない。西洋文明に比較的近いところで行われている今回の戦争は、SNS 時代も相まって、戦争の悲惨さをリアルタイムで伝えている。多少のフェイクはあるかもしれないが、それが今まで行われていた中東やアフリカ、中央アジアの紛争と異なる点である。ただ、戦争というものはウクライナのみならず、すべからく悲惨なものであったことが推測され、ニュースなどで報道があるたびに心を痛める。かの孫子は「戦わずして人の兵を屈するは善の善なるものなり。」すなわち、戦わずして目的を達することが最上と説いた。また、仕方なく戦う場合には、短期決戦にて確実に勝利すべきと言っている。がんに例えると、予防、そして早期発見と早期治療にあたるわけで、（一部）予防できるがんである食道がんについて、もっと啓蒙活動を行う必要がある。食道学会でも、武藤学先生を中心にアルコールと食道がんに関する啓発活動部会が発足し活動を開始した。がんとの戦を賢く進めるためにできることはまだまだある。

広報委員会　委員長　加藤　健
副委員長　本山　悟
委　員　竹内裕也、神宮啓一、山﨑　誠
村上健太郎、有馬美和子、出江洋介
熊谷洋一、奈良智之、白川靖博
山辻知樹、浜本康夫、坪佐恭宏
坂中克行、野村基雄、矢野友規
川田研郎、髙木健二郎

特定非営利活動法人 日本食道学会 事務局
〒130-0012
東京都墨田区太平2-3-13　廣瀬ビルディング4階
電話　03-6456-1339　　FAX　03-6658-4233
e-mail：office@esophagus.jp
ホームページ　http://www.esophagus.jp/